

吉川史料館たより

第65号
2018年
(平成30年)
2月11日
日曜日

発行所 吉川史料館

山口県岩国市横山二丁目七―三
郵便番号 七四一―〇〇八一
電話番号 (〇八二七)―四二―一〇二〇

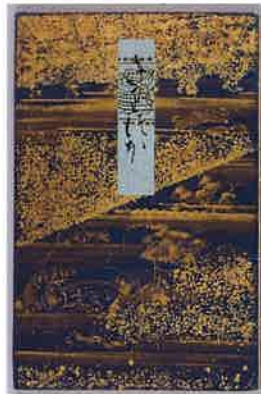
展示品目の紹介



このたびは、『源氏物語』を紹介し
ます。伝来は二代岩国藩主広正夫人・
竹姫の婚礼道具です。
竹姫は、毛利輝元の娘で慶長五年(一
六〇〇)に誕生しました。母は児玉元良
の娘・周です。
さて、広正との結婚は、元和元年(一
六一五)二月ごろには決定し、翌年の
七月一九日、婚礼が萩の浜手御屋敷で
執り行われました。

この婚礼の道具の中に源氏物語全
五十四帖があります。

表紙は、紺紙に金泥で水辺に草木を
描いており、その納め箱には花鳥の蒔
絵に毛利家の家紋・沢瀉紋(おもだか
もん)を配すという豪華な品です。



桐壺の巻 (縦20, 6cm 横15, 1cm)

さて、源氏物語は書写本により流布
してきましたが、平安時代の写本はな
く、古いものは、鎌倉時代に藤原定家
が校訂した定家本と、そして源親行が
校訂した河内本があります。竹姫伝来
の源氏物語は四十六帖が河内本の系統
であると確定されており、河内本と言
ってよいものです。

源氏物語の研究者・稲賀敬二氏によ
れば婚礼の際に書写されたものでなく、
既に毛利家に伝来していた源氏物語と
みてよいものだそうです。確証はあ
りません。

吉川家において元和二年には源氏
物語の一部が存在していましたので、
毛利家にあっても何ら不思議でないの
です。

竹姫にとって舅にあたる広家は源
氏物語を勉強していた形跡が残ってい
ます。五十四帖の題目を書き写してお
り、武将にとって教養として身につけ
るものであったと思われる。

源氏物語は長編で登場人物も多く、
覚えるのも大変苦勞します。

竹姫持参の源氏物語には「夢浮橋」
の奥書には次のような系図があります。
これは解説のひとつとして物語を
理解するのに役立ちます。

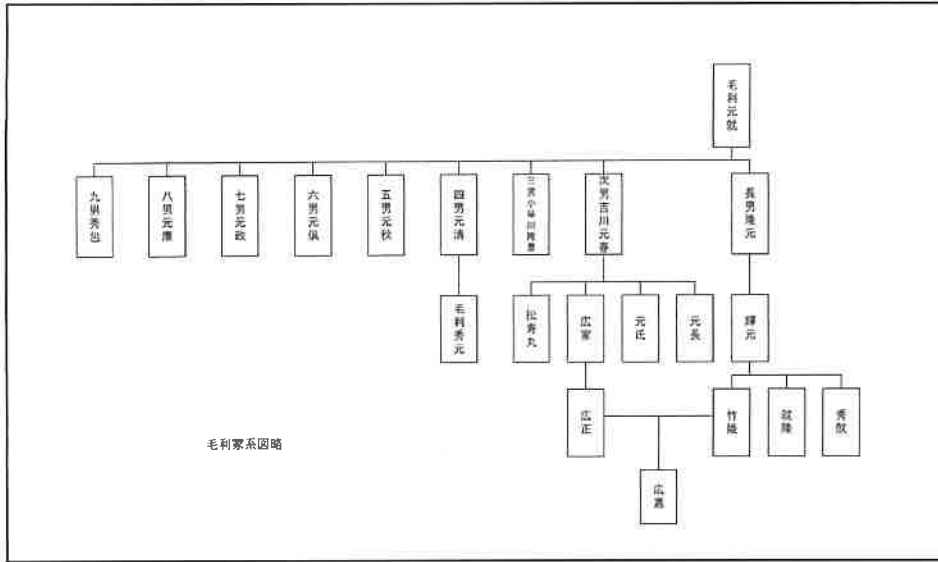


実際に、これを竹姫がどのくらい読
んでいたか分かりませんが、当館では
女性の伝来品の中で一番古くとも貴
重な品です。

(原田史子)

竹姫の手紙

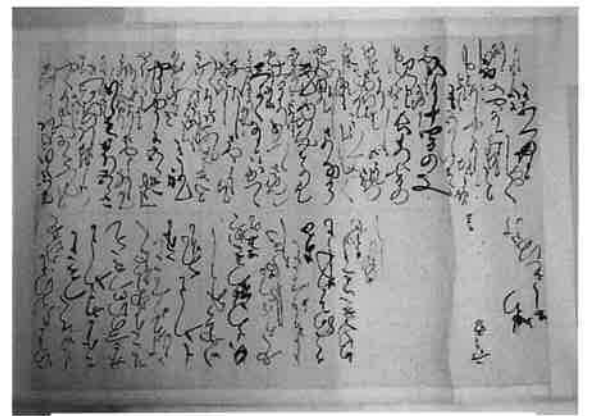
元和二年(一六二二)、萩の浜手屋敷(吉川邸)にて、吉川広正と毛利輝元の娘・竹姫の婚礼が執り行われました。ふたりは、左の系図のように、毛利元就のひ孫で、ほとこの関係になります。



毛利家系図略

当時は、政略結婚なのですが、竹姫はこの結婚を不満に思っており、家臣の中にも同じ気持ちの者もいました。要は同格の大名家に嫁いでもよいのではないかと考えていたようです。さて、二人の結婚は、前年の十二月ごろに決定したのですが、竹姫の不満は解消されないうまでしたので、父の輝元は竹姫に手紙を記しています。(毛利家文書一一八六号)

長い手紙なので簡略すると毛利秀元と吉川は大事な存在である。姫の短気な性格を心配し、とにかく堪忍するようにとも説得しています。この手紙が功を奏したのか、観念したのか覚悟ができたのか分かりませんが、破談にもならず、二人の間には二男五女が生まれました。嫡男は、錦帯橋を創建した広嘉です。竹姫の母親としての一面をしめす手紙があるので紹介します。広嘉は元和七年(一六二二)誕生し、最初に江戸へ向かうのは寛永元年(一六二四)の時、わずか三才です。それから六年間を江戸で過しています。その次に江戸に向かうのは竹姫が亡くなっているのです、手紙は最初の江戸参府の時のもと考えられます。



吉川広正夫人(竹姫)書状

(現代語訳)

五月十四日付けの手紙、拝見しました。長松(広嘉)が七日より、虫心にて熱がでて気分が悪くなったとの事。さりながら、延寿院の薬にて十一日より少しずつ回復に向かい、食欲も少しずつ召しあがられているとの事。そうであれば、薬を服用することもなく安堵しています。体調管理には、五郎さが気を配ってください。食事を召し上がらないとおしも、おち、五郎さ達の気遣いほど、どんなに大変かと思えます。私など役に立つわけではありませんが、遠方におるために何かと心配しております。飛脚が来るのが遅く、こちらへ手紙が二十三日に届きました。そして、そちらの事を詳しく分かり安堵し

ました。長松の熱気が徐々に下がり、薬を服用しなくてもよいとのこと、安堵しました。そのようでありまして、何かと心配になります。朗報をお待ちしております。め

でたくかしく
追伸(広嘉の)御気分のほどを後ほど詳しく聞きたく存じます。

もし、役に立てばと思いつつ、日向殿(輝元の息子・毛利就隆)にも五もじが今も体調がよくないので、心では何かと思いつつ、ままなりません。薬については細心の注意が必要です。延寿院の薬と申しても、薬だけに頼るのはよくありませんので、このことを心得ておくことが大事です。細かいことを申したいけれども、急ぐので詳しく申せません。朗報をお待ちしております。謹んで申し上げます。

六月五日

おち

おしも

たけ

五郎さは松浦五郎左衛門の事
(広嘉の側近)

「おち」と「おしも」は広嘉の世話をしてきた女性のことで乳母のことです。いつの時代も幼いわが子の体調を気遣う、不変であることが伝わってきます。
原田史子

歴史エッセイ

毛利秀元という人物 原田史子

毛利輝元は毛利秀元と吉川が一族のなかでも大事であると思っていました。

この左の図のように慶長五年(一六〇〇)一〇月、毛利家が防長二ヶ国に減封にともない吉川広家には領地の東部(岩国)を、秀元には西部(下関)を与えて防衛の要としています。秀元の出自は、毛利元就の四男・元清の次男として天正七年(一五七九年)十一月、備中猿懸城にて誕生しました。幼名は宮松丸。

防長移封直後の配置図

■ 毛利秀元領 ■ 吉川広家領 ● 一門



五才の頃、毛利家の惣領である毛利輝元に男子がいない為、秀元が養嗣子となりました。天正十四年(一五八六)、豊臣秀吉のもとに人質として大坂へ赴き、天正十八年(一五九〇)、宮中にて元服し、豊臣秀吉の一字を賜り、秀元と改名します。文禄三年(一五九四)、秀吉の養女と結婚し、秀吉の姻戚関係となります。同じころ、輝元に実子が誕生しましたので、慶長四年(一五九八)、秀元は別家をもうけ、長門、周防吉敷、元清の遺領十七万七八五石をあたえられました。

慶長五年の関ヶ原の合戦後、秀元には豊浦郡などを三万六千石が与えられ、長府の雄山城を居城とします。

そして、輝元の嫡男・秀就の後見役として毛利家を支えていきました。毛利家にとり、秀元は大事な存在であったわけです。

吉川家にとっても秀元を頼りにしていました。

一例として挙げますと、『岩国市史通史編二 近世』の中に、寛永五年(一六二八)二月、京都の商人から借りていた借銀が高利だったので秀元へ相談し、萩藩主毛利秀就名義で銀三九〇貫目を利安に借り替えてもらったという記述があります。『吉川家譜』には、その年の秋には吉川広正が長府へ赴いたとあり、御礼か何等かの相談で訪ねたのだと思われまます。

秀元は將軍家光の御伽衆のひとりでもあったので注目されてしかるべきなのですが、なかなか取り上げられないのが残念です。

秀元について詳しく書かれた本として『毛利秀元拾遺譚―元就の再来―』(田中洋一著)があります。この本にご興味のある方は左記のところにお問い合わせください。

(問い合わせ先)

株式会社三和印刷社

〒七五二-〇九二七

下関市長府扇町九番一号

TEL 〇八三-二四九-一一三〇

編集後記

今回は「婚礼道具と漆工芸品展」を開催しています。

大名家の道具は華やかで工芸品としても優れています。

ただ、婚礼道具のほとんどはどなたの品か特定することができません。これは長い間のなかでそれを示すものが紛失したものかと考えられます。

昭和時代の京都の人形師大木平蔵のひな人形、御所人形なども合わせて展示しています。

このたびは、展覧会用のパンフレットをあらたに作成しました。かわいらしいデザインに仕上がっています。

吉香公園内では梅も咲いている時期ですので、是非、当館へご来館ください。お待ちしております。

(原)

吉川史料館

〒七四一-〇〇八一

山口県岩国市横山二丁目七-三

TEL 〇八二七-四一-一〇一〇

FAX 〇八二七-四一-三二〇〇

「婚礼道具と漆工芸品展」 展示目録				併設 雛人形	吉川史料館
期間 平成30年2月11日～3月25日					
	史料名	時代	作者	数量	
1	源氏物語	室町時代	毛利家伝来	54帖	
2	花鳥図屏風	江戸時代前期	斎藤李元筆	6曲1双	
3	蒔絵厨子棚	江戸時代中期		1個	
4	蒔絵鏡台・棹	江戸時代後期	京都製	1個	
5	蒔絵手箱	江戸時代中期	京都製	1個	
6	蒔絵歯黒箱	江戸時代後期	京都製	1個	
7	蒔絵渡し金箱	江戸時代後期		1個	
8	梨地鉄仙蒔絵耳盥	江戸時代中期	京都製	2個	
9	梨地鉄仙蒔絵角盥半挿	江戸時代中期	京都製	2個	
10	梨地鉄仙蒔絵手拭掛	江戸時代中期	京都製	1個	
11	蒔絵黒棚	江戸時代		1個	
12	打掛	江戸時代	吉川経幹夫人所用	3領	
13	雛人形	昭和時代	五世 大木平蔵作	1揃	
14	雛人形	昭和時代		1揃	
15	雛人形	昭和時代		1揃	
16	御所人形(一寸法師と姫)	昭和時代		1揃	
17	御所人形(はいはい人形)	昭和時代	大木平蔵作	1体	
18	御所人形	昭和時代		1体	
19	蒔絵貝桶	江戸時代		1対	
20	蒔絵短冊箱	江戸時代後期	京都製	1個	
21	蒔絵長文箱	江戸時代後期	京都製	1個	
22	梨地蔦蒔絵長文箱	江戸時代中期		1個	
23	蒔絵文台	江戸時代		1個	
24	梨地千鳥蒔絵硯箱	室町時代		1個	
25	梨地山吹蒔絵硯箱	江戸時代中期		1個	
26	蒔絵旅櫛笥	江戸時代中期		1個	
27	堆朱牡丹香合	明時代		1個	
28	堆朱屈輪香合	明時代	楊茂作	1個	
29	堆朱布袋香合	明時代	独立性易所持	1個	
30	蒔絵八角香合	江戸時代中期	京都製	1個	
31	蒔絵扇面形蒔絵香箱	江戸時代	京都製	1個	
32	能管	桃山時代	吉川広家所用	1個	
33	笛の書	16世紀	吉川広家筆写	3冊	
34	蒔絵小鼓胴	桃山時代	伝 折居作	1個	